

東海 あすの群像

◆◆102

伝える 17

生地を糸でくる。家業は浴衣の染色。一人に染めた。「そうきんみたくり、染め上げ 息子のお野さんは子供時代かい」と、鶴飼さんに評される鳴海・有松ら休日には両親の手伝い。家が、額に入れ、画廊に飾られ絞。くくり方はを継ぐことは暗黙の了解とな。そこには委託加工の絞り百種類に及び、っていた。名城大卒業後、一とは違った絞りがあった。それぞれ独特の年間、繊維関係の商社に。地 約三百八十年の伝統を誇る味わいを出す。元の絞りの製品がどういう形 鳴海・有松絞。工程の大きな名古屋市緑区ので、販売ルートに乗っている久野剛資(つよ)が、確かめたかったからだ。し(さん)さん。偶然との出会いが絞りで伝統を乗り越えある」。大学一年のとき、知

伝統乗り越えた新作絞

級の素材を使った絞りはきれいだ。ファッションショーでも引けをとらない」

「精密な絞りより、個性あ

え、現代感覚にマッチした新しい合いのうけつ染作家・鶴飼さんがくくりと染色の両部門。和服離れのなか、伝統的な絞りの製品は低迷を続け、コスト面からくくりの製作を中国に韓国に依存する業者も増えている。この中で、絞りの技法を応用、創作的な作品を発表している一人が久野さんである。

大正時代に設立された久野染工場は、初めて絞り作品を作った。芸研究会代表幹事に勧められ、初めて絞り作品を作った。韓国の四代目の経営者であった。ハンカチ大の生地を適当

鳴海・有松絞の教室開設

久野 剛資さん (三)

品づくりをコーチ、卒業生は太陽の形を表現したブラウス。五百人近くへのぼる。この大と、荷づくり用のビニールはいる。感性を生かした絞りに月には絞り作品を展示するギンモを使ったムラ染のワンピに挑戦したい」。久野さんは「型にスの二種類。ワンピースは十、来年発売するテーブルクはまっぺいない」。橋爪俊勝万円。プリントでは出せない。ロスやタペストリーなどイン

評である。

切れた。

アートの分野への進出を計

この夏、大手アパレルメーカー・ニッポルの製品に久野さんでは三宅一生、やまと寛チームを結成して制作に助

八年前には工場内に絞り教室を開設。応用を主体にした作の出しほり」の技法を使い、を相手にすると違い、最高

